

平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(大台町) の概要

6月22日(金)に大台町で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。
当日は、神瀬の未来を語る会の皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 県外のお客さんは、お伊勢さんや松阪牛は知っているが「三重県ってどこ？」と言われるためショックだった。全国ブランドとしてPRしてほしい。
- 神瀬の地域は、熊野古道がずっと通っているが、道が荒れたままになっているところもあるので、熊野古道をきちんと整備してほしい。
- 四季を通じたフォトコンテストを開催してからは、観光客も増えてきたが、熊野古道へやってきた観光客が休憩したり、景色をみたりできる場所やトイレがないので、整備してほしい。
- 今あるきれいな景観を維持し、1次産業+2次産業+3次産業へと展開させていくことが必要である。
- 現在、「ふっ茶おう」という地域の特産物を使った商品を試作中であり、今後商品化していきたい。



「ふっ茶おう」の試作品の試飲

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 防災でも何でも、いざという時だけなんとかしようと思っても無理がある。普段の時からつながりができていることが重要である。「みえ県民力ビジョン」では、「協創」という考え方を示しており、これまで進めてきた協働をさらに一歩進めて、一緒にやるだけでなく、みんなで何かを創り出すというコンセプトでやっていくこととしている。
- 再来年（26年）は、熊野古道の世界遺産10周年の年になるため、そのPRを進めていく中で、せっかく来ていただいた観光客の満足度をあげるような取組を町や市と県が一緒になって進めていきたいと考えている。

